

## イネドロオイムシが多発している水田では防除を実施してください

## [現在の状況]

6月第3半旬現在、イネドロオイムシの発生量は平年より多い。現在のところ被害程度は無～少の水田が多いが、地域や圃場ごとに発生の程度に差があり、一部では多発している(表1)。現在中齢幼虫が主体であり、齢期が進むに従い被害が増加する。  
気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並から多いと予想され、イネドロオイムシの被害を助長する条件である。

表1 水田におけるイネドロオイムシの発生状況(6月第2, 3半旬調査)

地域 (調査地点数)	被害度		被害程度別地点数					幼虫数 (25株あたり)		幼虫数程度別地点数				
	本年	平年	甚	多	中	少	無	本年	平年	甚	多	中	少	無
県北(29)	1.2	0.6	0	0	0	9	20	2.3	0.6	0	1	3	4	21
鹿行(6)	6.5	1.6	0	0	1	2	3	18.7	1.0	1	0	0	1	4
県南(19)	1.2	1.5	0	0	0	5	14	2.9	1.4	0	1	2	3	13
県西(12)	4.3	1.1	0	0	0	9	3	5.8	1.4	0	1	3	3	5
全县(66)	2.3	0.6	0	0	1	25	40	4.6	1.0	1	3	8	11	43

注 被害度 少発生:1~19 中発生:20~49 多発生:50~69 甚発生:70以上

被害度 1:25株のうち1株に軽い食害が認められる。25:25株のうち25株に軽い食害が認められる。  
50:25株のうち全ての株で食害がやや多い。

幼虫数 少発生:1~4 中発生:5~19 多発生:20~39 甚発生:40以上

## [防除対策]

イネドロオイムシの発生が多い圃場では、直ちに防除を行う。特に谷津田、雑草地の近傍、昨年多発した圃場などでは発生状況を必ず確認する。

表2 イネドロオイムシに対する主な防除薬剤(平成20年6月18日現在)

薬剤名	10aあたり施用量 または希釈倍数	収穫前 日数	本剤の 使用回数	有効成分 有効成分の総使用回数
トレボン粒剤	2~3kg	21日	3回	エトフェンプロックス 3回
トレボン乳剤	1,000~2,000倍			
アドマイヤー粉剤DL	3kg	21日	2回	イミダクロプリド 3回(本田2回)
MR・ジョーカー粉剤DL	3kg	7日	2回	シラフルオフエン 2回

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用してください。

また、薬剤散布の際は、周辺作物への飛散(ドリフト)に十分注意してください。

水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに、止水期間は一週間程度としてください。